

1. 趣 旨

- ・被災に合い、十分な外活動ができていない福島の子どもたちに自然体験の楽しさを味わわせる。
- ・自然体験を通して、異年齢集団での仲間作りを行い、高学年のリーダーシップや、低・中学年のフォローシップを育成する。
- ・集団での自然体験活動を通して、人間関係づくりの能力や、規範意識をはぐくむ

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

3. 協 賛 東日本大震災復興支援財団

4. 後 援 文部科学省 福島県教育委員会

5. 協 力 飯綱町観光協会 ハートランド妙高 (株)前川レジャーシステム

6. 期 日 平成26年11月1日(土)～ 11月3日(月)2泊3日

7. 会 場 国立妙高青少年自然の家

8. 対 象 小学生1年生～6年生

9. 参加人員 75名

10. 日程および内容

	午前	午後	夜
11月1日 (土)	福島から新潟へ移動 1号車 7:30 福島駅西口受付 8:00 福島駅西口発 2号車 7:30 郡山駅東口受付 8:00 郡山駅東口発 米山 SA でお弁当(持参)	14:15 自然の家到着 開会式 仲間作りゲーム 15:00 妙高アドベンチャー 17:00 荷物整理・食事・入浴	19:30 館内 オリエンテーリング 20:30 ふり返り 21:30 入浴・就寝
11月2日 (日)	7:15 朝食 8:30 自然の家出発 1号車 9:00 ピザ作り 11:30 昼食 12:00 バス出発 2号車 9:30 リンゴ狩り 11:30 昼食(弁当) 12:30 バス出発	13:30 Mウェーブ到着 オリンピック記念館見学 14:30 スケート体験 16:00 バス出発 16:30 おみやげ購入 小布施道の駅 17:30 自然の家到着	17:30 夕食・入浴 19:00 ふり返り 20:00 発表会 21:00 連絡 21:30 入浴・就寝
11月3日 (月)	7:15 朝食 8:00 自然の家出発 8:45 自然の家出発 1号車 9:00 リンゴ狩り 10:30 バス出発 11:30 自然の家到着 2号車 9:00 ピザ作り 11:30 昼食 12:00 バス出発 12:15 自然の家到着	12:30 閉会式 13:00 自然の家出発 1号車 福島駅西口着 18:15 2号車 郡山駅東口着 18:00 ※ 交通事情により到着時刻は変更がある。 到着時刻については自然の家に問い合わせる。	

10 ボランティアスタッフ

筑波大学より1名(社会教育実習生) 信州大学より1名 上越教育大学より4名
新潟青陵大学より3名 社会人1名
計10名 (班付きスタッフ10名)

11. 活動の実際

1日目(11月1日)

〈アイスブレイク〉



〈妙高アドベンチャー体験〉



〈館内オリエンテーリング〉



参加者が初めて出会うということもあり、初めは緊張した様子が見られていた。アイスブレイクや班単位で実施した妙高ベンチャー体験を通して、緊張もほぐれ、笑顔で活動にとりくめるようになった。特に妙高アドベンチャー体験では、屋外のエレメントを使用したダイナミックな活動を実施した。全身を使った体験は低学年から高学年まで夢中になって、話し合ったり協力し合ったりしながら、課題の解決に向けて取り組んでいた。今回の事業では、1年生から6年生までの参加となったことから、高学年のリーダーシップを期待していたが、その結果館内オリエンテーリングでは、班の雰囲気、ボランティアスタッフとの関係もよくなり、チェックポイントを探すのにみんなで協力し合いながら活動することができた。

2日目(11月2日)

3日目(11月3日)

〈りんご狩り体験〉

2・3日目

〈スケート体験〉

2日目

〈ピザ作り〉

2・3日目



2日目・3日目は、同じ部屋で一緒に過ごしたことにより、友達やボランティアとの関係も出来、どの班も楽しそうに活動していた。りんご狩り・ピザ作りでは、プログラムの受け入れ人数等の関係で、1号車と2号車で交互に体験を行った。

りんご狩り体験では、真っ赤なりんごがたわわに実るりんご畑にみな歓声を上げた。農家の方から収穫方法を教えていただき、思い思いに9個の真っ赤なりんごを収穫した。身長差があることから、高学年が低学年の収穫を手伝ってあげたり、収穫したかごをひもで縛ったりするなど、ボランティアスタッフだけでなく、6年生が率先してサポートする姿が見られた。

Mウエーブでのスケート体験では、初心者の子が多かったが、友達と手をつないだり、ボランティアのサポートを受けたりしながら、人生初のスケート体験を楽しんでいた子が多かった。転んでばかりで泣いてしまう子

もいたが、横を通りかかった子が手を取って引き起こしてあげるなど、ふみだす探検隊参加者全体の連帯感が生まれていたように感じた。

ピザ作り体験では、地元のシェフの指導を受けながら、米粉入りの生地や地元産トマトソースを使った本格ピザ作りに挑戦した。包丁やガスコンロ・オーブンを使用したが、職員・ボランティア・高学年児童の配慮で怪我ややけどに注意しながら調理することが出来た。生まれて初めての自分のピザが焼き上がると、皆笑顔でおいしそうにいただいていた。

〈新聞作り〉



〈新聞発表会〉

1日目・2日目とも夜はグループごとに新聞作成を行った。活動の疲れも見えなくなかったが、話合いが始まるとみんな積極的に意見を出し、それを6年生が上手にまとめていた。初めて出会ったばかりとは思えないほどの話合い・新聞作成に取り組んだ。その後の発表会では、できあがった新聞を6年生のリーダーシップの下、班の成果や個人の感想を発表し合った。1年生も緊張しながらも精一杯の発表をすることが出来た。80人もの前での発表はとても緊張をするようで、言葉につまって泣いてしまう子も見られたが、班のメンバーが優しくサポートを行うなど、班の絆も深まっていた。

〈部屋掃除〉



〈参加者代表の感想発表〉



〈記念撮影〉



閉会式では、各班1名が代表して感想を述べた。堂々と感想を発表することが出来た。記念撮影をし、妙高を去る際は、仲良くなったボランティアとの別れを惜しむ参加者がほとんどであった。最後の休憩となった磐梯山SAでは、1号車福島方面と2号車郡山方面で別れを惜しむ姿も見られた。この3日間で本当に仲良しになれたことを実感した。



13. 成果と課題

体験活動と言語活動による新聞作り、「キャンプをふり返って」というまとめ（資料参照）を行う事で、参加者が学んだことを以下のように成果として明らかにすることができた。

- ・ 異学年交流が盛んに見られ、リーダー、フォロワーの関係が築かれていくのがわかったこと

- ・ アイスブレイク・妙高アドベンチャー体験は、仲間づくり体験、連帯感の醸成にとっても効果的な支援であったこと。
- ・ 親から離れて寂しく思う子もいたが、日に日にたくましい顔つきになり、本人にとって大きな自信になったこと。
- ・ 高学年リーダーを中心に、子どもたちが時間を決めて行動が出来るようになったこと。
- ・ ピザ作りのような、協力や分担が必要な場面では、トラブル無く作業を進めることが出来たこと。
- ・ 高学年児童が積極的にリーダー的役割を担い、班活動がスムーズに活動できるようになり、事業運営上にも効果が見られたこと

また、課題としては以下の点が明らかになった。

- ・ 活動開始前のスタッフミーティングが短時間しか確保できず、情報共有の面で問題が残ったこと。
- ・ 低学年の活動実態にあわせ、もうすこし余裕を持った日程にした方が良いこと。
- ・ 活動班(男女混合)と生活班(男女別)の切り替えのタイミングが難しかったこと。